

事業名	水産業成長産業化推進事業(環境 DNA 調査)
予算区分	計画調査費(水産振興課)
事業実施期間	令和6年
担当者	木本翔、住友寿明、石川陽子、三好亮徳、松本一樹、藤岡保史、 渋江文、丸龍岬太、立石岳人
共同研究機関等	なし

〈目的〉

本県の基幹産業である海藻養殖については、近年、クロダイ等の藻食魚の影響により、生産量が大きく減少している。クロダイ等は市場価格が極端に安く、漁獲されても生きのまま放流されることが多いため、被害が拡大している。そこで、クロダイ等の効果的な防除及び駆除に資する基礎的な知見を得ることを目的として、クロダイ等の生息水温や生息状況等を把握し、生息密度が高い海域を特定するために、環境 DNA 調査を実施した。

〈方法〉

漁業調査船「とくしま」を用いて、令和7年3月に播磨灘海区5定点、紀伊水道海区14定点、海部沿岸海区6定点において、海水を3L 採水した。採水した海水に10%塩化ベンザルコニウム溶液 (BAC) を加え、株式会社フィッシュパス (福井県坂井市) に発送し、環境 DNA の分析を依頼した。分析結果は、出現が確認された海水魚のうち、クロダイ等 (クロダイ *Acanthopagrus schlegelii*、キチヌ *A. latus*) の出現割合を算出した。

〈結果〉

調査定点及びクロダイ等の出現割合を図1に示す。

〈今後の課題〉

月毎の調査が望ましい

〈次年度の計画〉

未定

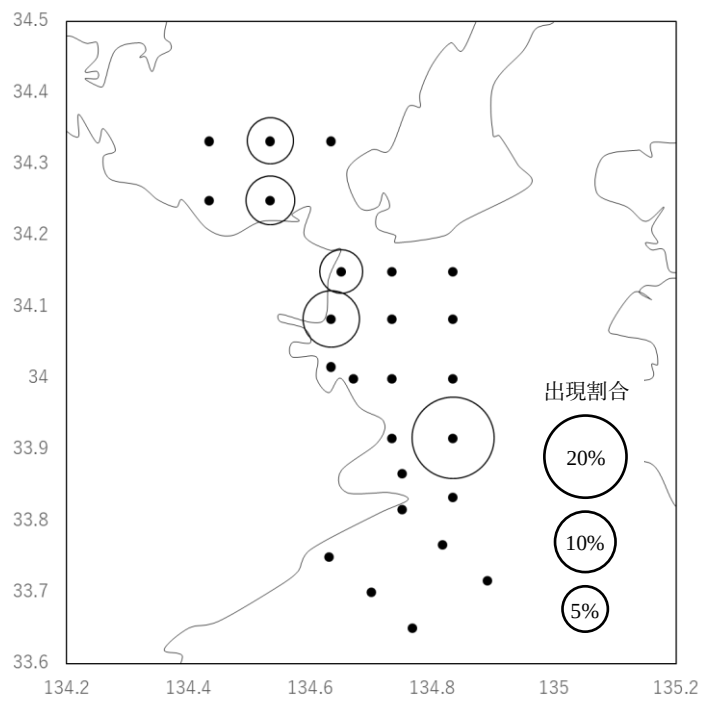


図1 調査定点及びクロダイ等の出現割合